

加美町薬用植物研究会 活動報告

～ 薬菜の里から薬用作物を ～

加美町薬用植物研究会



加美町の概要

◇ 概要

位置: 東経140度51分 北緯38度34分

海 抜: 46.32メートル

面 積: 460.82平方キロメートル

人口及び世帯数（H30. 4 現在）

男	11,945
女	12,486
計	24,431
世帯	8,072

加美町は、宮城県の北西部に位置し、東西に約32km、南北に約28km面積は約461平方キロメートルあり、県内でも有数の面積を有しています。西部は、奥羽山脈を隔てて山形県尾花沢市に、南部は宮城県色麻町に、北部から東部にかけて宮城県大崎市に接しています。地形としては西部、北部、南部が山岳、丘陵地となっており、ブナなど豊かな森林を有する舟形山や、加美富士と呼ばれる加美町のシンボルとなる『葉葉山』が聳えています。丘陵地から、鳴瀬川、田川などが町を貫流し、その流域は肥沃な田園地帯が広がりを見せ、丘陵地帯、高原、平野部における四季折々の自然の変化が満喫できます。また、天然記念物「鉄魚」の生息する魚取沼などの湖沼が点在しております。

加美町の気候は、寒暖の差が大きく内陸型気候に属し、西部の山脈・丘陵地帯は降雪量も多く豪雨地帯に指定されております。最近5年間の平均気温は11.2℃、年間平均降水量は1,186mmあり、冬から春にかけて北西風が強い地域です。

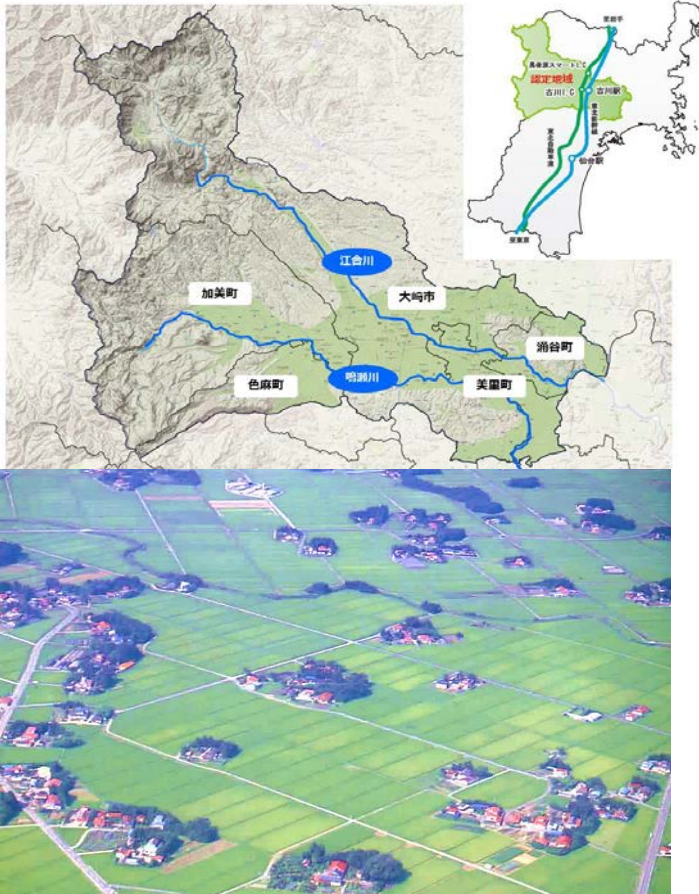


世界農業遺産認定

持続可能な水田農業を支える『大崎耕土』の伝統的水管理システム

認定エリア

大崎地域 1市4町
(大崎市、加美町、色麻町、涌谷町、美里町)



平成29年12月にFAO(国連食糧農業機関)より世界農業遺産(GIAHS: ジアス)の審査結果が公表され、大崎地域が世界農業遺産に認定されました。

『持続可能な水田農業を支える大崎耕土の伝統的な水管理』は、「やませ」による冷害や洪水、渇水が頻発する厳しい自然条件の中、農業用水の確保や栽培技術、排水対策など、農業農村の営みのあらゆる場面で水を巧みに管理する様々な知恵や工夫、数多くの苦労を重ねながら、米づくりを中心とした水田農業により「大崎耕土」と称される豊饒の大地を継承してきました。

この伝統的で巧みな水管理によって支えられる水田農業の営みは、水田と水路、ため池、農家の暮らしを支える屋敷林「居久根」とともに、水田の持つ豊かな湿地生態系や農文化も育んでおり、「生きた遺産」として認定されました。

加美町の薬用植物栽培取り組みについて

1. 薬用植物栽培への取り組み経緯について

加美町のシンボリックな山『薬菜山』三容が富士山に似ていることから『加美富士』とも呼ばれている。この山や周辺の山などで薬用植物の自生する環境があり、昔から医薬の守護、病難退散、寿福招幸の山として信仰されてきた。今でも町内の古老には、病気には医者薬より『薬菜でとれる野草のせんぶりが一番効く』と語る人もいるなど、薬用植物が自生する環境で土壌的な面においても栽培に適した土壌であると考え、加美町では、この環境を活かすために、薬用植物の産地化を目指し、農家所得の向上につなげていく。

加美町では、新たな作物への取り組みとして、薬用植物に着目。

平成27年11月『加美町薬用植物研究会』を設立し、現在研究会で試験栽培を実施している。

(会員数: 団体5団体・個人14名)

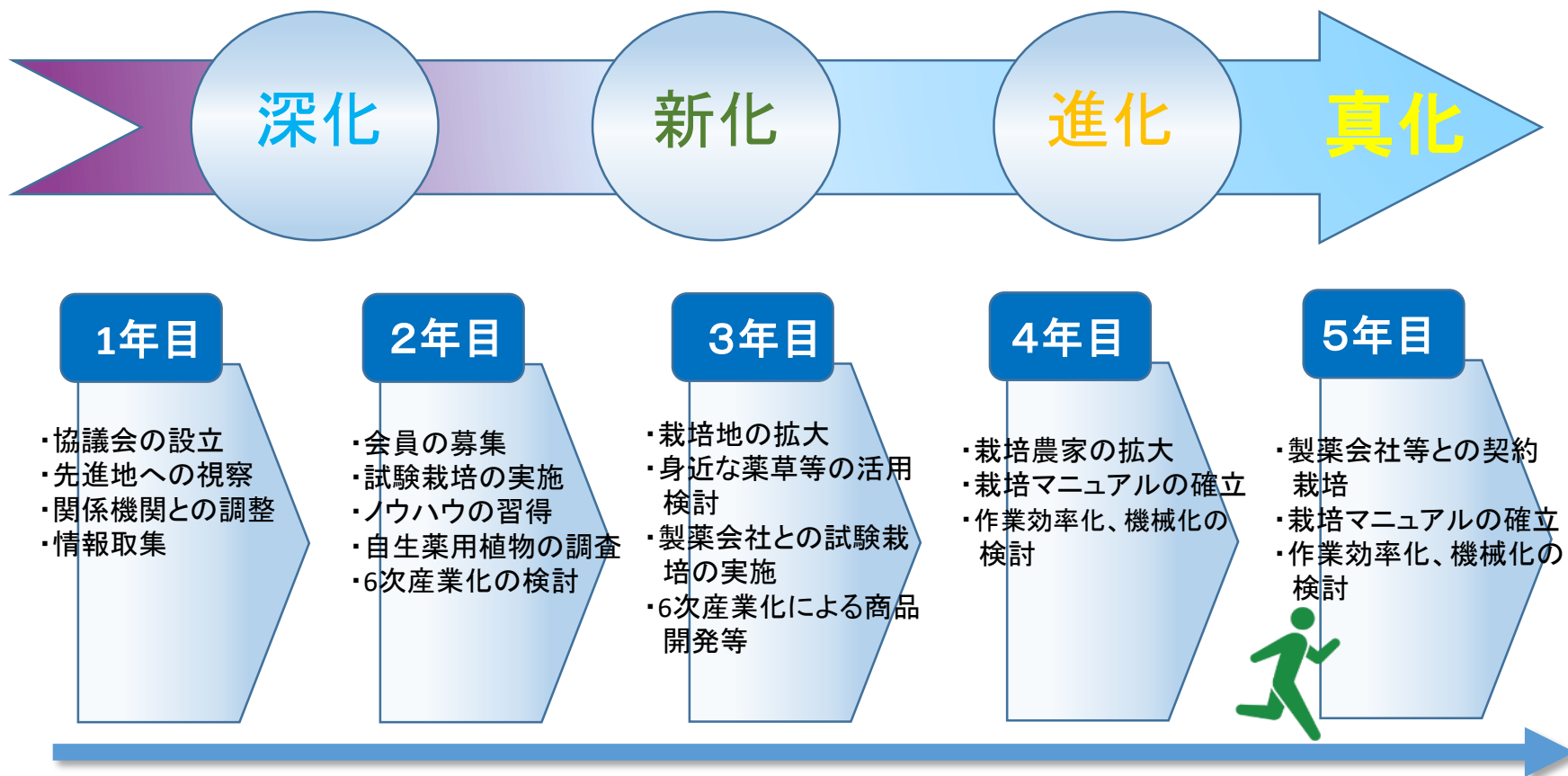
2. 取組体制について

薬用植物栽培研究を『加美町薬用植物研究会』が主体で行う。団体の事務局を加美町農林課に置き、団体と行政で連携しながら薬用作物の産地化に向けて進んでいる。

栽培技術指導については、大阪薬科大学名誉教授 草野 源次郎先生の指導を受けながら『ムラサキ』『トウキ』『カンゾウ』などの栽培を行っている。

薬用作物栽培の振興と産地化を目指すために『薬用植物取組計画』と『加美町薬用植物栽培ビジョン』を立てて現在進行している。

・薬用植物栽培の取組計画



加美町薬用植物栽培ビジョン ～薬用作物栽培による農業活性化～

協力体制の構築

- 宮城大学
- JA加美よつば
- 加美町
県普及センター
- NPO法人
薬用普及みやぎ

- ・六次産業化
- ・地場産特産品の開発
- ・メディカルツーリズムの展開



波及
効果



加美町薬用
植物研究会

(生産者・生産団体)

マッチング



日本漢方製
薬製剤協会

日本国内の製薬製造
業者、販売業者によ
る製薬業界団体

加盟 65 社

試験栽培・契約栽培



3. 栽培品目の選定した経緯について

平成28年度より薬用作物の試験栽培を始める。

栽培品種『ムラサキ』・『トウキ』・『カンゾウ』・『コガネバナ』などの栽培を試みた。

数種類の試験栽培で『ムラサキ』の生育が順調で、生薬として使用される根の張りも大変良く、加美町に適していることが確認でき、この事を受けて『薬用作物産地支援協議会』が主催する地域相談会に参加し、製薬会社と試験栽培契約を交わすことができた。

また、ムラサキは、古から染料としても使われており、町内の染織家の協力もいただき加美町産ムラサキで染めた『ポケットチーフ』を試作しました。

◇ 種苗の確保について

【ムラサキ】

大阪薬科大学名誉教授の草野先生より200本提供していただき、栽培に取り組む。
種類: 長野県の野生種の苗を提供していただき、種を採取して面積を増やしてきている。

【トウキ】

平成30年度より製薬会社と契約を結び、製薬会社より提供していただいた苗を栽培。今年から種を採取してトウキ栽培していく。

その他薬草(カンゾウ・コガネバナ・ミシマサイコ)等
県の薬用植物園から苗の提供を受けた。
今年から各種類の種採取に取り掛かる。



◇ ムラサキ



試験栽培を実施



試験ほ場のムラサキ



収穫したムラサキ

◇ 染料への活用



ムラサキで染色



4. 栽培管理の特徴とポイント

1月下旬: 播種作業 (セルポットで発芽)



- 播種作業時のポイント
セルポットで約40日間生育
苗の生育状況や根の張り具合を観察
生育状況を一括管理

使用培土

窒素 (260mg)
リン (3,000mg)
加里 (320 mg)

4月上旬: 移植作業 (ポットへ移植)



- 移植作業時のポイント
培土を変えることで栄養が取れる
根の張り具合の観察
生育状況を一括管理

使用培土

窒素 (260mg)
リン (3,000mg)
加里 (320 mg)

11月下旬: 収穫作業 (機械化への検証)



3. 薬用植物栽培の取り組みで期待できる効果等。

- ・ 耕作放棄地、休耕地の活用により農地の活性化。
- ・ 高付加価値農業の展開による農業所得増。
- ・ 漢方薬メーカーとの契約栽培により安定収入。
- ・ 健康食品等の開発、6次産業化に向けた取り組み。
- ・ 薬用作物を活用した新商品開発による食品産業との相乗効果。
- ・ 薬用作物を活用したツアー等による観光産業との相乗効果。
- ・ 薬草、生薬による健康増進（民間薬の活用）。



5. 現在の課題・問題点と今後の対応

- ◇ 機械化などによる作業の省力化
 - ・ 栽培管理機（トラクター、畝立機、収穫機、乾燥機）の導入。
 - ・ 除草作業機の導入。
- ◇ 加工場（建屋、洗浄機、乾燥機）などの導入に対する支援（補助事業）
 - ・ 乾燥機及び砂取機の導入が急務。
- ◇ 病気等の枯死による反収減
 - ・ 枯死の原因究明が必要。
- ◇ 研究会員の確保
 - ・ 会員の高齢化、作業労働の軽減。





ご清聴 ありがとうございます。

宮 城 県 加 美 郡 加 美 町 管 内 図

